

7 保健体育

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成

— 表現力を育む、授業展開を目指して —

嶽山 由佳里

《本論の要旨》 学習指導要領における保健体育科の目標は、「心とからだを一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことである。

中学校保健体育科では平成20年1月の中央教育審議会答申を受け、体育分野についてそれぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身につけ、生涯にわたって運動に親しむことができるように発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図っている。その具体的な改善事項のひとつに、小学校高学年からの接続及び発達の段階のまとまりを踏まえ、体育分野として示していた目標及び内容を「第1学年及び第2学年」と「第3学年」にわけて示すことが挙げられている。これは、小学校から高等学校までの12年間を見通して「各種の運動の基礎を培う時期」「多くの領域を経験する時期」「卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期」といった発達の段階のまとまりを踏まえ示されたものである。

本校保健体育科では、体を動かすことで身体能力を身につけるとともに、集団での活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考を育み、運動に親しむ資質・能力を育成したい。また、小学校、中学校及び高等学校を通じて、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現を目指す。

《キーワード》 指導内容の体系化・心と体の一体化・コミュニケーション能力・思考力・表現力

1. 研究主題によせて

新学習指導要領では、発達の段階のまとまりを、小学校1年生～小学校4年生、小学校5年生～中学校2年生、中学校3年生～高校3年生の3つに体系化することとなった。中学校1年生及び2年生においては、体育分野での目標に運動の楽しさや喜びを味わうことが、引き続き重要なねらいであることを示した上で、小学校5年生及び6年生との接続を踏まえ、運動を豊かに実践するための知識や技能を確実に身につけることが大切であると強調されている。また「心身の調和的発達を図る」ため、体を動かすことの楽しさや心地よさを味わうことによって心身の緊張を解きほぐしたり、体力を高めたりして心と体を一体としてとらえ、バランスよく育てることが大切であると示している。中学校3年生においては、中学校1年生及び2年生の目標を受けて、個々の能力に応じて運動の楽しさや喜びを味わうことが大切であるとし、また高等学校との発達の段階のまとまりを踏まえて、少なくとも一つの運動やスポーツに親しむことができるようにすることを目指し、自己に適した運動の経験を通して、義務教育の修了段階においての「生涯にわたって運動を豊かに実践する」ための基礎となる知識や技能を身につけ、選択した運動種目等での運動実践を深めることができるようにすると示している。これ

を踏まえ、中学校1年生及び2年生の学習においては小学校高学年、また中学校3年生の学習においては高等学校との発達の段階のまとまりを意識しながら、生徒の体力の向上と健康なライフスタイルの確立を視野に入れたうえで本研究を進めていきたい。

2. 研究のねらいと方法（手段）

昨年度は、バレーボールのスキルを発揮する一つ手前の動作に焦点をあて、ボールに触れるまでの動きをリズムとしてとらえ習得した後、ボールに触れるといった段階指導を実践した。

本年度は、ダンス領域において、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせたり、体幹部（重心部）を中心に全身で踊ることにより思考力・表現力を高めさせたい。また小学校での、創作主題になりきったり、リズムに乗ったりして踊ることや、表したい感じ（イメージ）を表現したり、リズムや踊りの特徴をとらえたりして踊ることを意図した学習を受け、中学校では、イメージをとらえたものを自己で表現し、交流や発表を行うことで互いにイメージを深めさせたい。また仲間との活動を通じ、コミュニケーション能力を身につけていけるよう取り組みを工夫し、研究を進めていく。

3. 思考力を育む学習形態の工夫

～イメージから感覚、そして表現へ～

①題材名, 対象学年, 授業時間

ダンス（現代的なリズムのダンス）, 第2学年女子, 全10時間

②研究主題との関わり

中学校学習指導要領において、ダンス領域では、「思考・判断」の他に「知識」が位置づけられたことがポイントである。また「ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする」（中学1・2年）と示され、高等学校学習指導要領とあわせて考えてみても、生涯にわたる豊かなダンスライフを支える「技能」・「態度」、そして「知識」・「思考・判断」を捉えた指導の展開が期待されている。

本研究では、指導内容の体系化を受けて、発達の段階のまとまりを意識しながら、生徒の体力の向上と健康なライフスタイルの確立を視野に入れたうえで研究を進めていく。

本単元は、ロックやサンバ、ヒップホップなどの現代的なリズム音楽にのって展開される。生徒はその展開の中で、自由にリズムの取り方や動きを工夫し、体の部分や全身の動き、相手との関わり合いを生かして踊る動きなどで、弾んだり回ったりして踊る。心や体を弾ませ、リズムカルに体を動かして踊る楽しさや、仲間と交流して踊る喜びを味わうことができる。拍子のビートに合わせて短い動きをくり返して踊ることからはじめ、さらに前拍や後拍（アップ&ダウンビート）、休止や倍速などの変化を加えたリズムで踊ると楽しさが増す。また指導展開の工夫や教師の助言により、まとまりのある動きを工夫して仲間と作品を創り上げ、互いに表現し触れあっていく中で、心身の健康や望ましい人間関係の育成が図られると考える。

中学生期は心身ともに不安定な時期でもあり、仲間からどのように見られるか不安になり自己表現がうまくできず、ダンスと聞くと身構える生徒も少なくない。仲間と互いに教え合い学び合い、ともに練習に励むなかで、できなかった動きができるようになったり、周囲からみとめられたりすることから自信をつけ、リズムにのって体を動かすことの喜びや楽しみを感じることができるよう

授業を進めたい。

本単元では、仲間と動きを教え合うことができるよう4～7名の小グループを編成し、グループの課題や自己の能力に適した課題を共有し、互いに学び合う場を設定した。また習得したステップを図解させることにより、動きの本質や特性について生徒自らが考え、記憶と思考において重要な役割を果たしているイメージ（心的イメージ）として思い描いたものを感覚としてとらえさせ、表現へと導きたいと考える。学習形態を工夫することにより、ひとりでも多くの生徒が、ダンスの喜び・楽しみに触れ、生涯にわたって自発的にダンスに親しむ力を育成したい。また、交流・発表することにより、互いのよさを認め合い、自他の理解を深めさせたい。

③学習目標

・ダンスの特性に関心を持ち、喜びや楽しみを味わえるよう、進んで練習や創作、発表や交流に取り組もうとしている。また互いのよさを認め合い、グループで協力して活動に取り組み、自他の理解を深めようとしている。 【関心・意欲・態度】

・自己の能力やグループの特性に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方や作品の構成について工夫している。 【思考・判断】

・ダンスの特性に応じたリズムカルな動きを身につけるとともに、音楽に合わせて変化とまとまりのある作品を創作し表現することができる。

【技能】

・ダンスの特性やリズムの取り方・動き方、作品のまとめ方を理解するとともに、仲間と関わりながら動く楽しさや喜びについて、述べたり書き出したりしている。 【知識・理解】

④学習計画

第1次：事前アンケート・グループ決め…1時間

第2次：柔軟性を高めるストレッチと基本

ステップの習得 …1時間

第3次：基本ステップの習得とその活用…1時間

第4次：変化とまとまりのある作品創作…5時間

第5次：発表・交流 …1時間

第6次：事後アンケート・作品鑑賞（自己評価）

…1時間

⑤授業の様子

《プロジェクターの活用》



《グループ別ミーティング》



《DVDの活用》



⑥本時の学習展開

	学習内容・活動	教師の指導・支援	評価規準 (◆)・評価方法 (☆)
導入	<p>1 集合 あいさつ 指示 準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣後体育館3周のランニングを行う。 ・4列横隊で集合し、健康観察を受ける。 ・本時の流れを聞く。 ・ストレッチ体操を行う。 ・前時のステップを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席者、見学者の確認を行う。 ・本時の学習の内容と目標を確認し、学習の見通しを持たせる。 ・けが防止のため、ストレッチ体操は、ていねいに行わせる。 ・リズムにのって踊ることが苦手な生徒には、カウントを取ったり次の動きを指示したりするなど、支援を行う。 	<p>◆全身でリズムをとらえ、ダンスの楽しさを味わおうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>☆行動観察</p>
展開	<p>2 学習内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作のルールとポイントについて理解する。 ・各グループに分かれ、振り付け・ステップの組み合わせについて考える。 ・学習したステップを組み合わせ、音楽に合わせてリズムカルに踊る。 ・これまでに完成しているところまでのダンスを学級別に見せ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な身体の動きと組み合わせ方について考えさせる。 ・動きの合わせ方、ずらし方について理解させ、曲の雰囲気に応じて選択していくよう指示する。 ・グループの個性を活かすことができるよう助言し、課題解決の支援を行う。 ・互いに教え合って練習させながら自発的な学習を促す。 ・同じ動き・ステップを活用していても、速さを変化させたり、手の動きを加えることなどで、印象が変わることに気づかせるよう働きかける。 	<p>◆現代的なリズムのダンスに興味・関心を持ち、仲間と積極的に関わりながら協力して創作に取り組もうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>☆行動観察</p> <p>◆課題曲の特性について考え、動きに変化をつけながら構成している。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>☆ワークシート</p> <p>◆自己の能力、グループの特性に応じた表現ができる。</p> <p>【技能】</p> <p>☆行動観察</p>
まとめ	<p>3 集合・振り返り・あいさつ・後始末</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動と次時へのつながりを確認する。 ・ワークシートに自己評価・反省・感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作した内容をワークシートにまとめておくよう指示する。 ・本時の活動が今後どのようにつながっていくのか理解させる。 	

⑦ワークシート

《覚えたステップを記録しよう》

イラスト	説明・ポイント	イラスト	説明・ポイント
	片足を足の前におき、もう一方の足を後ろに引く。足は揃えておく。		片足を足の前におき、もう一方の足を後ろに引く。足は揃えておく。
	左足を右足の横にのり、右足を横に移動。右足を足の前におき、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。		左足を右足の横にのり、右足を横に移動。右足を足の前におき、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。
	右足を前に出し、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。		右足を前に出し、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。
	左足を右足の横にのり、右足を横に移動。右足を足の前におき、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。		左足を右足の横にのり、右足を横に移動。右足を足の前におき、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。
	右足を右に踏み、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。		右足を右に踏み、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。
	右足を右に踏み、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。		右足を右に踏み、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。
	右足を右に踏み、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。		右足を右に踏み、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。
	右足を右に踏み、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。		右足を右に踏み、左足を右足の横にのり、右足を横に移動。左足を右足の横にのり、右足を横に移動。

《ステップ（イラスト・説明）の活用法》

◇ステップの動きと名前を一致させ、組み合わせ方を理解する。

◇前時のステップの確認する。

◇グループで作品をつくる際の振り返りを行う。

生徒の活用法としては、以上の3点であるが、イメージとして捉えたものを自ら描き説明する、また実際に体を動かす中で、相手に言葉で伝えたりすることにより、表現の仕方を知識として身につけ、個々またはグループの課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるよう授業を展開した。

《ワークシートの活用》



写真1

《DVDの活用》



写真2

写真1は、ワークシートのイラストを活用し、ステップのスムーズな組合せ方を考えているところである。

写真2は、DVDを活用し、ダンスの作品は、合わせる事だけが美しいのではなく、人とあえてずらし、踊ることにより生まれる一体感もあるのだということに気付くよう働きかけているところである。

《生徒のワークシートより、発表会後の感想の一部》 ～友だちのダンスをみて感じたこと～

◇構成

- ・左側にいる人が踊っている間、右側にいる人が腕を組んで立っているなど、止まるという表現で“静”と“動”が使われていて見ていて楽しかった。
- ・同じ動きが2回繰り返されると、飽きてしまうので変化を加えればよいと思った。
- ・振り付けをわざとずらしたり、前を向く人と後ろを向く人に分けたりしていて格好良かった。
- ・円の形で踊っていたところは、縦に並ぶか他の形にした方がよく見えたように思う。

◇技能

- ・同じステップもスピードを変えて行くと、また違った印象になってよかった。
- ・手をただ叩くだけでなく、回すという動作が入っているのもよかった。
- ・トゥーループ（ステップの名称）は、もっとはっきり手を伸ばした方がよかった。
- ・スライド（ステップの名称）を使いながら移動していくのが、すごいと思った。
- ・ポーズを考える発想力がすばらしいと思った。

◇コミュニケーション

- ・踊りを忘れそうになると誰かがひっぱってくれて、まとまりのあるグループだと思った。
- ・遅れている人がいたときに、他のメンバーが動きを合わせてあげていたのがすごいと思った。
- ・みんな笑顔でとても楽しそうに踊っていた。笑顔の方がよいダンスに感じた。

上記のように、生徒からは主に、構成・技能について具体的な指摘があった。また動きについていけず遅れている生徒がいたときに、リードしてくれる生徒の存在や、人は笑顔になることで見ている者が温かい気持ちになったり楽しく過ごせたりするなど、生徒の中からたくさんの気づきがあり、コミュニケーション能力の育成という点についても効果が期待されると感じた。

《作品鑑賞会より》

～自分のダンスをみて感じたこと～

発表会を終えて、自己の動きを映像で見たときには、思っていた以上に動きが小さいと感じたり、恥ずかしいと思いながら踊っている方が逆に目立つことになってしまっているということに気付いたり、発表という場では、相手に見せるということをもっと意識していく必要があると感じている生徒が多数みられた。

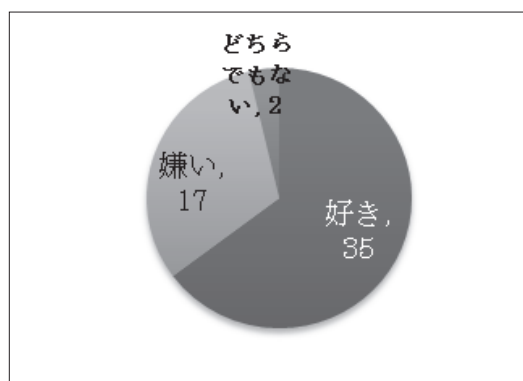
《生徒のワークシートより、授業を終えての感想の一部》

- ・ダンスの組み合わせを考えるにあたって、積極的に発言できたのでよかったです。(例えば、手拍子を入れたり、前後左右を逆にしたりなど) また機会があれば、オリジナルの作品を創りたいです。
- ・初めは“ダンスは、プロがやらないと格好良くみえない”と思っていたけど、最後のポーズや習ったステップ（のカウントの取り方）をくずして工夫すると格好良く見えることがわかりました。また前列と後列などで違うことをしても格好良いと思いました。
- ・同じ音楽とステップを使ってダンスを創っているのに、どのグループも全く違うダンスでおもしろかったです。
- ・手足を伸ばしたり、スピードを変えたりするだけで、そのダンスの感じが変わることがおもしろかった。ステップの組み合わせを考えるのがとても楽しく、工夫して立ち位置を変えていった。膝を使うことで格好良く見えることを知った。動きをなめらかにすることで、ゆったりとした感じが出て、体の動きで雰囲気を出す楽しさを知った。

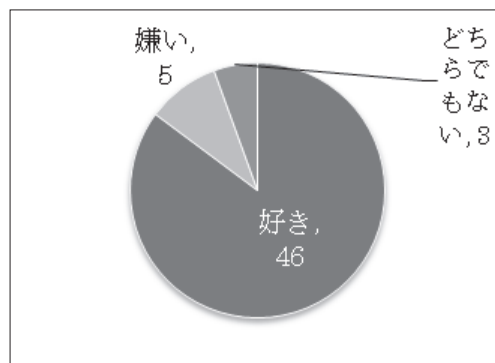
⑧事前・事後アンケート比較

◇あなたはダンスが好きですか？

【事前】（54名実施）



【事後】（54名実施）



事前アンケートの中で、上記の質問を行ったところ、35名の生徒が、ダンスが『好き』と答えたことに対して、『嫌い』という生徒が、17、『どちらでもない』という生徒は2名という結果であった。

ダンスが『好き』な理由としては、「楽しい」「上手に踊れると格好いい」「気分が盛り上がるから」などが挙げられており、また『嫌い』な理由には「難しそう」「見るのは楽しいけれども、自分がするのは恥ずかしい」「体が思うように動かないから」などがあり、『どちらでもない』という回答の理由には、「運動会でしかしたことがないのでわからない」などが挙げられていた。

今回授業を終え、同じ項目でアンケートをとり、比較したところ、『あなたはダンスが好きですか』という質問に対して、46名の生徒が『好き』と回答し、『嫌い』という生徒を5名にまで減少させることができた。その理由としては、「発表は恥ずかしかったけど、友達と相談しながら作品ができあがっていくのが楽しくて完成したときは気持ちよかった」「友達とピッタリ合ったときも嬉しいから」など、グループ活動を通しての仲間の支えが大きかったのではないかと考える。事前に“恥ずかしい”と感じていた生徒もグループ活動を通じて、できなかったことができるようになったり、楽しいと思える雰囲気が生まれたことから、“自信が持てた”ということが気持ちの変化につながっているようである。しかし、活動後も『嫌い』という生徒の理由は、「ミスをするとき大きく全体に影響するから」「ダンスをするのは楽しいけど、リズムをつかめないし、人前で踊るのは恥ずかしい。」など、“自信のなさ”が大きな要因となっているように感じた。周囲に迷惑をかけたくないという思いや、様々な不安を取り除けないという生徒にも、“自信”につながる働きかけができれば、今後の変化につながっていくと考える。

⑨成果と課題

今年度は思考力を育むため、ワークシートでイラストを用い、活用することにより、自分の頭の中でイメージしたことを整理することができ、グループ活動での活発な発言を引き出すことができた。またDVDやプロジェクターなどの視聴覚機器の活用により、イメージをより明確なものとしてとらえたり、自己のパフォーマンスを自分の目で見ることににより、多くの生徒がイメージしたものにより近い表現をしたいという気持ちが生まれ意欲が向上した。しかし課題としては、ダンス学習における運動の自信は、できなかったことができるようになったという自信と仲間・指導者から認められたいという思いが関与しており、その不安要素を取り除くための授業展開の工夫が必要である。またダンスに限らず、生徒の実情に合わせて、指導内容の視点を変化させていくことは、今後も変わらず継続して意識していきたい。

4. 思考力を育む学習形態の工夫

～Let's 男子んぐ・PVをつくろう！～

①題材名、対象学年、授業時間

ダンス（現代的なリズムのダンス）、第2学年男子、全8時間

②研究主題との関わり

新学習指導要領のダンス領域については、中学校1年生及び2年生の2学年にわたりすべての生徒に履修させることとしている。中学校3年生については、「器械運動」「陸上競技」「水泳」「ダンス」のまとまりの中から1領域以上を選択して履修できるようにすると記されており120年近くもの間、女子のみで行う領域であったダンスが、平成元年からは男女共習の選択制導入により男子にも選択できるようになり、今回の改訂で男女ともダンスは必修になった。そのため、男子生徒にとってダンスは、ほとんど取り組んだことがないといっても過言ではない程、経験が乏しく事前アンケートをみても抵抗を感じている者が多かった。今後ダンスを生徒が身近に感じ、生涯にわたって親しむ運動の一つとして選択していくためには、この2年生での導入が重大な役目を担っていると考え。このような状況の中、いかに生徒が興味・関心をもち、発表・交流という場で少しでも恥ずかしいという気持ちを減少させながら活動できるかという課題を解決するために、デジタルカメラの動画機能を使用し、各グループが共通のステップを覚え、校舎内外で撮影し、自分たち

でオリジナルのPV（CM）を制作することに挑戦した。その中で、思考力という観点を考慮し、絵コンテをつくったり、ステップにアレンジを加えさせたりしながら作品づくりに取り組むことができるよう授業内容の工夫を行った。

③学習計画

- 第1次：事前アンケート・グループ決め…1時間
- 第2次：基本ステップの習得とその活用…2時間
- 第3次：オリジナルPV（CM）の作品創作…4時間
- 第4次：事後アンケート・作品鑑賞（自己評価）…1時間

④授業の様子

《基本ステップの習得・DVDの活用》



《撮影した映像（作品）の確認・デジタルカメラの活用》



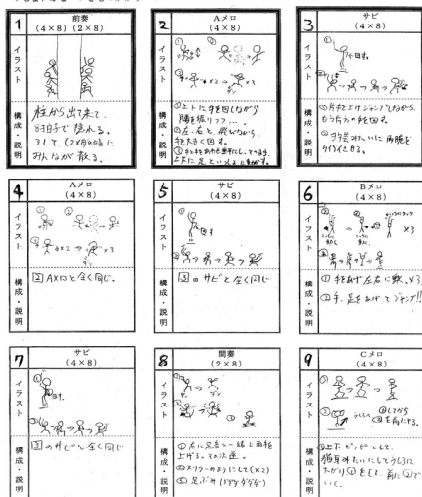
⑤ワークシート

【 ボッキーCMダンス*PVをつくろう！ 】
じょういふるへいきものがかり～

<p>前奏 (4×8) (2×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>ボッキーのダンスにア ダマンの人は おどるのダンスが かいてある。 (6人)</p>	<p>Aメロ (4×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>おどるのダンスにア ダマンの人は おどるのダンスが かいてある。(4人)</p>	<p>サビ (4×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>4人でおどる。</p>
<p>Bメロ (4×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>職員室前 おどる</p>	<p>サビ (4×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>7人</p>	<p>Cメロ (4×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>おどる 5人でおどる</p>
<p>サビ (4×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>7人</p>	<p>間奏 (2×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>2B教室内で</p>	<p>Cメロ (4×8)</p> <p>イラスト</p> <p>構成・説明</p> <p>1人でおどる</p>

【ポッキーCMダンスPVをつくらう♪】

※じよいふる〜いきものがかり〜※



《生徒のワークシートより、作品鑑賞会後の感想の一部》～自分のダンスをみて感じたこと～

- ・自分が想像以上に張り切って踊っていたので、少し恥ずかしかった。
- ・周りや後ろを見すぎていて格好悪いと思った。
- ・他の班の作品を観てみると、それぞれの特徴（個性）が出ていて楽しかった。また、みんなでダンスを見せ合いたいと思った。

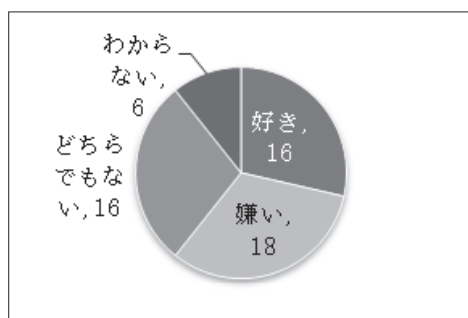
《生徒のワークシートより、授業を終えての感想の一部》

- ・ダンスは恥ずかしいし嫌いであったが、授業を終えて嫌いではなくなった。楽しかったし、格好いいと思えた。完全にイメージが変わりました。
- ・自分たちでPVを創るというのが、とても楽しかった。振り付けをアレンジして創ったり組み合わせたりしてもよいというのが、グループで自由に考えることができたのでよかった。
- ・みんなのダンスを観るのも楽しかったし、友達に細かい動きなども教わり勉強になった。今度は創作ダンスもやってみたいと思う。

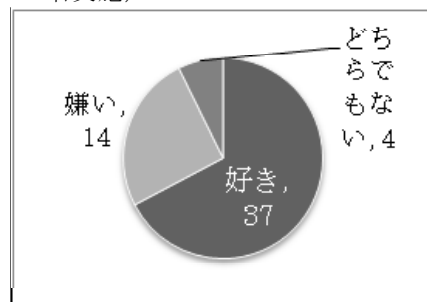
⑥事前・事後アンケート比較

◇あなたはダンスが好きですか？

【事前】（56名実施）



【事後】（55名実施）



男子においても事前・事後アンケートを行い、女子同様の質問をしたところ、約3分の1の生徒が『どちらでもない』『わからない』という回答であった。その理由は前述の通り「今まで経験したことがないためわからない」という回答がほとんどであった。事後アンケートでは、37名の生徒が『好き』と回答し、『嫌い』という生徒が、14、『どちらでもない』という生徒は4名という結果となった。ダンスが『好き』と回答した生徒の理由としては、「やってみると楽しかったから」「恥ずかしいという気持ちがなくなったから」「体全体で自分（の気持ちなど）を表現できるから」などが挙げられ、『嫌い』と回答した生徒の理由としては、「難しい」「体を動かすことが苦手」「よい思い出がない」など、まだまだ自信のなさが現れている意見が挙げられていた。

⑦成果と課題

今回ダンスの授業を通して、事前調査では、経験したことがないという理由からダンスに抵抗があった生徒が、ダンスを『好き』になり、経験することにより自信へとつなげることができたのではないかと考える。授業展開を工夫し、発表会ではなく作品鑑賞会として、あらかじめ撮影した映像を鑑賞するという方法で鑑賞を行ったことは、中学校の男子のダンスの導入としては、苦手意識を減少させるという点で、成果があった。今後より一層イメージを表現へとつなげていくためには、さらに様々な角度から研究を進め、「ダンス」領域での指導力を向上させていく必要がある。

【引用・参考文献】

- 「HIPHOPダンスステップ集」前田理子ほか：民衆社(2010)
- 「平成20年改訂中学校教育課程講座 保健体育」今関豊一・岡出美則・友添秀則編著：(株)ぎょうせい(2008.12.10)
- 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省：(株)東山書房(2008.9.25)
- 「第44回全国女子体育研究大会(東京)研究紀要」：社団法人 日本女子体育連盟(2010.8.7)